

昨年の3月バーミアンの遺跡がタリバンにより破壊されたことが世界に報道された時、新聞の片隅にアフガニスタンの人のコメントが載っていました。「メディアは命のない石像が壊されて初めて事件として報道するが、これまでに何万人のアフガン人がタリバンに殺されても、そのことは報道しなかった」。9月11日から半年前の事です。

世界の問題を知ること、それは人々を孤立から救う手立ての一步だと思います。ただし、まずその情報がなければどうしようも有りません。伝えることのできる立場にいる人が自らの仕事を怠ることは罪だと思いました。

僕は、昨年の2月ロッテルダム国際映画祭でこの『プロミス』を観ました。これを日本で公開すべきだと思いましたが生ネズミ面を考えると正直躊躇しました。9月にアメリカで同時多発テロ事件、そしてアフガンでの殺戮が起きました。事の問題の根源はどこにあるのか、配給会社としてできることは何かを考えました。そこで『プロミス』という映画の存在を知っている者として日本で配給することを決めました。

『プロミス』は声高にパレスチナ・イスラエル問題を訴える映画ではありません。パレスチナとイスラエルに住む7人の子ども達の眼を通して和平の可能性を考える映画です。また「人はなぜ憎しみあうのか？」という素朴な問題を直視した映画です。子ども達が持つ世界観は、周囲の大人達や住んでいる環境によって形成されたものでしかありません。最終的に中東問題解決ならびに和平努力は、パレスチナとイスラエルの子ども達に託すしかないと映画は伝えます。

この映画を製作した非営利団体“プロミス映画プロジェクト”は、中東における和平プロセスを映像の持つ力で促進し、和平努力を支えることの大切さを人々に伝えることを目標としています。プロジェクト参加者には、イスラエルの故ラビン首相の妻 故レア・ラビン氏、パレスチナ解放運動家ハナン・アシュラウィ氏、俳優のリチャード・ドレイフュス氏、デボラ・ウィンガー氏、オシー・デイヴス氏などが名を連ねています。

アップリンクでは“プロジェクト”の意を汲みこの作品を日本で上映していきたいと思いますのでこの作品の上映を応援してください。

浅井 隆 (アップリンク主宰)

The Promises Film Project



הבטחות
وعود
Promises

プロ
ミ
ス

第74回 アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門ノミネート
2001年ロッテルダム国際映画祭：観客賞
2001年ロカルノ国際映画祭：世界教会運動特別審査員賞
2001年バンクーバー国際映画祭：観客賞、多様性スピリット賞
2001年サンフランシスコ国際映画祭：ベスト・ドキュメンタリー賞、観客賞
2001年ミュンヘン国際映画祭：表現の自由賞
2001年エルサレム国際映画祭：映画祭特別賞
2001年ハンプトン国際映画祭：ベスト・ドキュメンタリー賞
2001年ヴァラドリド国際映画祭：最優秀ドキュメンタリー賞
2001年サンパウロ国際映画祭：観客賞、ベスト・ドキュメンタリー賞

監督・プロデューサー：ジャスティーン・シャピロ／B.Z. ゴールドバーグ 共同監督・編集：カルロス・ボラド

製作：PROMISES FILM PROJECT 配給：アップリンク

PROMISES/2001年/アメリカ/カラー/1:1.66/ドルビー-SR/104分 ©2001 PROMISES FILM PROJECT



「映画に釘付けになり、感動の涙を流した。まったくもって新鮮で想像だになかったような作品だ。映画によって、複雑な中東問題に斬新な視点を与えられた。丁寧に作られたこの逸品を、すべての国のすべての人々に是非観てほしい」 マイケル・ギャブソン (CBS60ミニッツ・プロデューサー)

「嘘や感傷などとは無縁な、明晰でクリエイティブ、そして本質を突いた作品。『プロミス』は中東問題における悲劇に新しい視点を投げかけ、その中からほんの少しの希望を見出している」 NRC ハンデルスブラッド紙 (オランダ)

「見事に作られたこの映画1本で、悲しさと、予想していなかった笑いという2つの感情を味わえることだろう」 チャーリー・フレッチャー (ザ・スコットマン紙/スコットランド)

「非常に感動的で、嘘偽りのないこの作品は、私が過去に観た中東を扱った作品の中でもベストである。編集のリズム感が心が躍った。もし私が政治家なら、次の中東和平会議は『プロミス』の上映から始めるだろう」 デビッド・グロスマン (作家/イスラエル)

B.Z.ゴールドバーグ (共同監督)

僕はボストンで生まれたが、少年時代をイスラエルですごした。小さい頃、エルサレムにある「嘆きの壁」へよくお祈りにいったものだった。新しい自転車のこと、片思いのクラスメートのこと、そして平和な世界が早く訪れることを。その後、ニューヨーク大学で映像を学び、ジャーナリストとして再び故郷の地に立った。1987年の第一次インティファダ (パレスチナの民衆蜂起) の時だ。パレスチナとイスラエルの対立は僕が生まれるずっと前から続いている。子ども達の日常は昔も今も戦争と隣り合わせだ。爆弾がさく裂し、親や兄弟、親友の命を奪ってゆく。それでも彼らは生きてゆかなければならないのだ。紛争と平和の狭間にいる、そんな子ども達の声が聞きたくなった。1995年、パレスチナ・イスラエル問題が、小さな子ども達の成長に大きな影響を及ぼしているに関心を持ったジャスティーン・シャピロ監督と出会い、僕は映画を製作することで意気投合した。撮影は1997～2000年の比較的穏やかな和平交渉の時期に行われた。パレスチナとイスラエル双方の子ども達7人を取材した。ほんの20分足らずの所に住んでいるのに、彼らはお互いのことを全く知らないのだ。



○ベイト・エル入植地
●モイセ



ヨルダン川西岸地区
パレスチナ人の住んでいた所に1967年以降、ユダヤ人入植地がつくられている。
エルサレムに入る所には多数の検問所があり、パレスチナ人が入るのは難しい。

Promises Film Project



ファラジ



ヤルコ



ダニエル



サナベル



シュロモ



マハムード



モイセ

ファラジ

デヘイシャ難民キャンプに住んでいる。イスラエル兵に殺された友達を復讐を取りたいと思っている。
「いつか必ずこの土地を取り返してやる。俺がダメでも次の世代がパレスチナを解放し、故郷を取り戻してくれる」

ヤルコとダニエル

西エルサレムに住む双子の兄弟。彼らの関心事は、陸軍、宗教、そしてバレーボールであり、祖父はドイツのユダヤ人強制収容所の体験者である。
「イスラエルでは自分で自分を守らないといけない。仲良く暮らせばいいのに」 ヤルコ
「戦争やテロで人々が死んだと聞くとびに殺し合ってバカみたいだと感じる」 ダニエル

サナベル

デヘイシャ難民キャンプに住んでいる。ジャーナリストの父親は刑務所に2年間も抑留されている。
「エルサレムはキャンプから10分なのに私はまだ1度も行ったことがないのよ。検問所のせいだね」

シュロモ

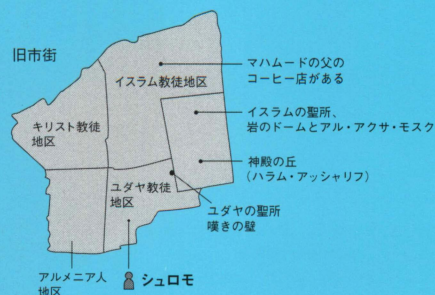
ユダヤ教徒地区に住み、1日12時間トラー (モーセ五書) を勉強している。超正統派ユダヤ教徒なので兵役義務は免除され、代わりに国からの給付を受けて神学校に席を置く。
「彼らの気持ちも分かる。50年前に土地を奪われて心細いんだと思う。でも、アラブ人とは友達にはなれない」

マハムード

東エルサレムに住み、ハマス (イスラム抵抗運動) を支持している。父親は旧市街のイスラム教徒地区で、三代に渡り香辛料とコーヒーを売る店を営んでいる。
「ここは絶対アラブ人の土地さ。何をどう言おうと変わらない。ここで生まれ育ったのは僕らだ」

モイセ

歴史の古いベイト・エル入植地に住んでいる。将来はイスラエル軍の最高司令官になり、アラブ人を1人残らずエルサレムから追い出したいと思っている。
「ここはユダヤ人の地だ。アラブ人と仲良くなかったら友達に嫌病者扱いされちゃうよ」



東京 BOX東中野、大阪 シネ・ヌーヴォ 他
全国ロードショー決定